

観光英語（17）：長崎県、島根県、山口県に見られる 歴史的キリスト教関連遺産の総合案内板の英語

福島 一人

Tourism English (17) : The English on Signs Explaining the General Summarized Information of the Historical Christian Sites in Nagasaki, Shimane, and Yamaguchi Prefectures

Kazundo Fukushima

Abstract

Because the Tokyo Olympic & Paralympic Games are to be held in 2020, more and more foreign tourists are expected to visit Japan. The English signs in Japan's popular tourist sites have to be increased in number and improved in quality so that the tourists will be able to enjoy fruitful and profitable trips to those sites.

This paper, as a case study, examines and suggests the English on signs in historical Christian sites, in Nagasaki, Shimane, and Yamaguchi Prefectures, such as the *Kashiraga-shima* [-island]-*tenshudou* [-cathedral], the *Kuro-shima-tenshudou*, *Otome-touge* [-pass]. and *Shibuki Nakayama-chiku-kinenchi* (the praying spot of the Nakayama district in Shibuki village).

The *Kashiraga-shima-tenshudou* and the *Kuro-shima-tenshudou* are designated as nationally important cultural properties, and are among the components of *Kashiragashima-no-shuuraku* [-village] and *Kuroshima-no-shuuraku*. They are inscribed on the World Heritage List by UNESCO as "Hidden Christian Sites in the Nagasaki and Amakusa Regions."

The signs discussed here are again those which indicate the general summarized information of these sites. If there are no such signs or if descriptions on such signs are thought to be inadequate, the writer's suggestions will be added.

The methods of writing the explanatory notes and Japanese names of the places, persons, or things will in principle follow Fukushima (2015.7), (2015.9), (2016.7), (2017.1) and (2018.7).

1. はじめに

2020 東京オリンピック・パラリンピックの開催が決定し、さらなる外国人観光客の増加が見込まれ、日本の観光地においては、特に国際語である英語案内板の質的・量的^{註1)}充実が望まれるようになってきている。このことは、日本人観光客の増加にもつながるからであろう。

本稿では、長崎県新上五島町の「頭ヶ島天主堂」、長崎県佐世保市の「黒島天主堂」、島根県津和野町の「乙女峠」、山口県「紫福（しぶき）中山地区祈念地」の案内板に検討を加え、当該観光地全体を平均的に記述する「総合案内板」を提案する。

前二者は、「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」として2018年7月に世界遺産に登録された「頭ヶ島の集落」、「黒島の集落」の構成要素である。

津和野「乙女峠」と「紫福中山地区祈念地」は、長崎県から離れた島根県、山口県に存在するが、「潜伏キリシタン関連地」と言える。

本稿で考察する案内板は、これまで執筆者が提案してきたものと同様、「包括的説明」を行う案内板（「総合案内板」）である。現地の案内板の説明が不十分（誤り等を含む）、あるいは、存在しない場合、リーフレットなども参考にして加筆修正を加え、また、提案を行う。

案内板の日本語説明について、縦書は横書きにして記す。段落始めは1文字分スペースを空けることを提案する。振り仮名は（ふりがな）とし、横書に記す。本稿で提案する振り仮名は赤字で記す。同様に、追加説明の提案部分も赤字で記す。

案内板の英語説明について、原文中のアンダーライン、文末の赤い数字は本稿執筆者による。執筆者の提案部分は、現存する説明を生かした部分を含め太字で記す。段落始めは3文字分スペースを空けることを提案する。綴字面などを含めた英文字表記法については、基本的には、福島(2015.7)、(2015.9)、(2016.7)、(2017.1)、(2018.7)で挙げた提案に従う。英語説明については、提案部分を含め、全体を太字で記す。

尚、本稿執筆にあたり、2018年10月3日(水)にNHK総合・東京で放送された『歴史秘話ヒストリア』も参考にした。

本稿で挙げる画像は執筆者自身が撮影したものである。

2. 「頭ヶ島天主堂」、「黒島天主堂」、「乙女峠」、「紫福（しぶき）中山地区祈念地」の案内板

長崎県新上五島町の「頭ヶ島天主堂」、長崎県佐世保市の「黒島天主堂」は、「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」として世界遺産に登録された「頭ヶ島の集落」、「黒島の集落」の構成要素である。島根県津和野町の「乙女峠」は、江戸時代が終わり明治時代ながらも、キリスト教徒に対する拷問が行われた場所として知られている。山口県の「紫福中山地区祈念地」が存在する「紫福（しぶき）」は、「仁保（にはほ）」と共に、江戸時代より前の戦国時代、毛利元就の治世下で行われた禁教政策の中、山口のキリスト教徒が身を潜めた地として知られている。

2.1 頭ヶ島天主堂

1



2



画像1の「頭ヶ島天主堂」は長崎県新上五島町に位置する。九州商船フェリーで160分程の「奈良尾港」から車で90分程の、「頭ヶ島」の島内に存在する。

「頭ヶ島天主堂」は1919年に建設され、2018年7月に「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」に登録された「頭ヶ島の集落」の構成素である。

崎津資料館みなと屋(2017.8.1)『瓦版第2号』によれば、「頭ヶ島の集落」は、「病人の療養地として使われていた島に仏教徒の開拓指導者のもとで移住し、信仰を続けた集落」と記されている。ある意味で「仏教の庇護を受けた」、という点で、2.2における「黒島の集落」と共通する。

画像2は、「頭ヶ島天主堂」の案内板である。日本語、英語、韓国語、中国語で記されている。日本語説明、英語説明は以下の通りである。

日本語説明について、段落始めに1文字分スペースを空けている部分、空けていない部分が存在する。構造説明が詳しすぎるように思われる。

頭ヶ島天主堂 国指定重要文化財(平成13年11月14日)

頭ヶ島は江戸時代末期まで無人島だったが、鯛ノ浦のキリシタンが安政6年(1859)迫害を逃れて住み着いた。大村藩・黒崎から弾圧を逃れて移り住んだドミンゴ森松次郎が、長崎にてプチジャン神父の教えを受けて島に帰り、慶応3年(1867)に住家を青年伝道師養成所として仮聖堂を置いたのが教会の始まりと言われている。

頭ヶ島天主堂は日本の教会堂建築でも数少ない石造で屋根は単層構造の瓦葺きである。

大崎八重神父の指導により明治43年(1910)に工事に着手。大正8年(1919)に完成した。大正8年(1919)5月にコンパス司教により祝別された。設計・施工は鉄川与助であり、当時の信徒が石積み工事に参加したと言われる。

教会堂の壁面に砂岩製切石を水平に積み上げ、正面は鉄川与助が好んで用いたといわれる八角形ドーム屋根の鐘塔を設けている。控えめな外観ではあるが、軒蛇腹や軒下のロンバルディア帯など洋風様式を積極的に取り入れようとした意図がうかがわれる。

内部は列柱をもたない単廊式の折上天井を二重の持ち送りで、ハンマービーム架構により支えられた独特のデザインで構成している。また、天井各部や持ち送り部等の随所に花模様の飾りを配し、柔らかな室内空間を作り出していることから、別名「花の御堂(みどう)」とも呼ばれている。

英語説明は、4段落6文135語から成る。段落始めは3文字分スペースを空けることを提案する。アンダーライン、文末の赤い数字は本稿執筆者による。

Kashiragashima Church

Important cultural property designated by the nation (14th Nov. 2001)

Domingo Matsujiro MORI who escaped oppression from Kurosaki of the Omura Domain, and returned to this island after he studied under PETITJEAN in Nagasaki.1

In 1867 he established a temporary church as a missionary school for the youth evangelist, which is said to be the beginning of this church.2

As one of the rare stone church in Japan, Kashiragashima Church is single-layered structure and the roof is tile-roofing.³ The church construction started at 1910, completed at 1919, and the consecration was held at May 1919 by Bishop COMBAZ.⁴ It was designed and constructed by Yosuke TETSUKAWA, and believers attended in this church construction too.⁵

Kashiragashima Church is also known as “Flower church”, due to its floral decorations on the ceiling, brackets and other architectural features.⁶

「表題」について、“*Kashiraga-shima [-island]-tenshudou [-cathedral]*” とする。

「重要文化財指定」については、原文の第一段落の前に、段落分けして、“*The Kashiraga-shima-tenshudou was designated as a nationally important cultural property on November 14th, 2001.*” とし加える。

第一段落の原文 1 について、「文」になっておらず、文法的に誤りである。“who” の前にコンマを入れ、“, and returned...” は “and” を削除し、“*Domingo Mori Matsujirou, who escaped oppression from Kurosaki in the Oomura Domain, returned to this island after he studied under Pettitjean in Nagasaki.*” とする。” of the Omura Domain” は、前置詞を “in” とし、“Oomura” と綴り、“in the Oomura Domain” とする。“Domingo Mori Matsujirou”、“Petitjean” とする。書き出しは 3 文字分スペースを空ける。

第二段落の原文 2 について、“the youth evangelist” は “young evangelists” とする。「森松次郎が青年伝道師養成所として仮聖堂をおいた」という「具体的事実」と、「(頭ヶ島教会の) 始まりと言われている」という「評価」に相当する部分は文を分け、後者を “*This is said to be the beginning of this church.*” とする。

第三段落の原文 3 について、“one of the rare stone church” は文法的誤りである。“an example of...” も加え、“as an example of one of the rare stone churches” とする。冠詞を入れ、“a single-layered structure” とする。「瓦葺き屋根をもつ...」と簡略化し、“with tile-roofing” とする。全体を “As an example of one of the rare stone churches in Japan, the *Kashiraga-shima-tenshudou* is a single-layered structure with tile-roofing.” とする。原文 4 について、“The church construction” は、原文 3 で、すでに “*The Kashiraga-shima-tenshudou*” を使用しているので、単に、“The construction” とする。年、年月の前置詞は、“in 1910”、“in 1919”、“in May, 1919,” とする。“completed” は文法的誤りであり、“and was completed” とする。「献堂式は ...」 “The concecration....” と文を分ける。原文 5 について、代名詞ではなく “*The Kashiraga-shima-tenshudou*” を主語とする。「当時の信徒が石積み工事に参加した。」という内容は、簡略化し、“and the believers also helped in its construction.” とする。

第四段落の原文 6 について、“*The Kashiraga-shima-tenshudou*”、“the “Flower Church”” とする。“Tetsukawa Yosuke,” とする。

現地の案内板の英語説明について、本稿執筆者の修正案などを含め、まとめる。

Kashiraga-shima [-island]-tenshudou [-cathedral]

The Kashiraga-shima-tenshudou was designated as a nationally important cultural property on November 14th, 2001.

Domingo Mori Matsujirou, who escaped oppression from Kurosaki in the Oomura Domain, returned to this island after he studied under Petitjean in Nagasaki.

In 1867 he established a temporary church as a missionary school for young evangelists. This is said to be the beginning of this church.

As an example of one of the rare stone churches in Japan, the *Kashiraga-shima-tenshudou* is a single-layered structure with tile-roofing. The construction started in 1910, and was completed in 1919. The consecration was held in May, 1919, by Bishop Combaz. The *Kashiraga-shima-tenshudou* was designed and constructed by Tetsukawa Yosuke, and the believers also helped in its construction.

The *Kashiraga-shima-tenshudou* is also known as the “Flower Church”, due to its floral decorations on the ceiling, brackets and other architectural features.

以上の画像2の現地の案内板の加筆修正案をもとに、以下の日本語説明、英語説明を提案する。日本語説明文中の赤字の部分は現地の案内板を大幅に変えたか、現地の案内板には存在しないものである。

海辺の「キリスト教信者墓地」は印象的である。そこに観光客を立ち寄りさせるために、「周辺の見所」として案内板に加えることを提案する。

現地の案内板の日本語説明には詳しい構造説明が見られる。一般観光客にはあまり興味がないことであろう。リーフレットなどに説明を譲るべきと思われる。

「国指定重要文化財」の記述は、「世界遺産登録された黒島の集落の構成素」の記述の段落で述べる。

「評価」→「歴史」→「現状」→「周辺の見所」と記す。これらに準じ、加筆・削除を試みる。「売り」と思われる「一花の御堂（みどう）」は「副題」で記す。

説明に説得力をもたせるため、画像1のような写真や、屋内の天井などの「花模様」の写真を添付することを提案する。

頭ヶ島天守堂 —「花の御堂（みどう）」—

頭ヶ島天守堂は、2001年11月に国の重要文化財に指定されており、2018年7月に「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」として世界遺産登録された「頭ヶ島の集落」の構成素です。「頭ヶ島の集落」は、キリスト教徒が、病人の療養地として使われていた島に仏教徒の開拓指導者の指導のもとで移住し、信仰を続け、独自のキリスト教共同体を維持した集落として知られています。

もとは長崎でプティジャン神父の教えを受けた森松次郎が青年伝道師の仮養成所として1867年に造った木造の教会堂でした。現在の石造りの天主堂は、大崎八重神父の指導により明治43年（1910）に工事に着手。大正8年（1919）に完成しました。大正8年（1919）5月にコンパス司教により祝別されました。設計・施工は五島生まれの仏教徒である鉄川與助であり、当時の信徒が石積み工事に参加したと言われています。

全国的にも珍しい石造りの教会堂です。外観の重厚さとは対照的に、内部は、天井など随所に花模様をあしらった優しい雰囲気を出しています。「花の御堂」とも呼ばれる所以です。

頭ヶ島天守堂を少し下った海辺には、キリスト教信者墓地があります。代々の信者の墓があります。

***Kashiraga-shima* [-island]-*tenshudou* [-cathedral] —The“Flower Church”—**

The *Kashiraga-shima-tenshudou* was designated as a nationally important cultural property in November, 2001. It is among the components of *Kashiragashima-no-shuuraku* [-village], which was inscribed on the world cultural heritage list as one of the“Nagasaki and Amakusa Hidden Christian Sites” in July , 2018. The village is known as the site on the island, *Kashiraga-shima*, where Christians migrated, under the guidance of a pioneer, who was a Buddhist. The island had been used as a recuperating place, and Christians continued their faith and kept their own Christian community there.



The *Kashiraga-shima-tenshudou* was originally a temporary wooden church built in 1867 by Domingo Mori Matsujirou who had studied under Petitjean in Nagasaki. It was established not only as a temporary church but also as a missionary school for young evangelists.

The construction of the present stone cathedral was begun under the guidance of Father Oosaki Yae in 1910, and was completed in 1919. The dedication ceremony was managed by Bishop Combaz in May, 1919. The building was designed and executed by Tetsukawa Yosuke, who was born in the *Go-tou* Islands, and was a Buddhist. It is said that the believers of the church attended the work of piling up the stones used for the construction.

It is one of the rare stone churches in Japan. In contrast with the massive appearance of the exterior, the interior evokes a gentle atmosphere with floral decorations on the ceiling and other architectural features. Therefore it is also called the “Flower Church.”

A little way down from the church, on the seaside, there is a cemetery where successive believers were buried.

「副題」を含め 273 語となった。

2.2 黒島天主堂

画像3の「黒島天主堂」は長崎県佐世保市に位置する。「黒島港」から徒歩30分程のところにある。「黒島港」までは、佐世保市「相浦（あいのうら）港」から黒島旅客船フェリーで40分程である。

この「黒島天主堂」は1902年に建設され、「長崎天草の潜伏キリシタン関連遺産」として世界遺産登録された「黒島の集落」の構成素である。「黒島の集落」は、「平戸藩の牧場跡の再開発地に（キリスト教徒が）移住し、仏教寺院でマリア観音に祈りをささげながら信仰を続けた集落」^{註2)}

3



4



として知られている。ある意味「仏教の庇護を受けた」という点で、「頭ヶ島の集落」と共通する。日本語説明について、現地ものを横書きで記す。各段落について、1文字分スペースを空けていることには賛成できる。「頭ヶ島天主堂」と同様、構造説明が詳しすぎるように思われる。

国指定重要文化財 黒島天主堂

平成十年五月一日指定

この地の教会堂は、明治十一年（千八百七十八）に来島したペルー神父が名切に木造教会堂を建設したのが始まりである。その後、明治三十年（千八百九七）にフランス人マルマン神父が来島し、本格的な煉瓦造教会堂の建設が始められた。建設には、黒島の信徒全員が献金や労働奉仕などで参加し、明治三十五年（千九〇二）に、黒島のシンボルとなる黒島天主堂は完成した。

外観は十一～十二世紀の西ヨーロッパで発祥したアーチを多用するロマネスク様式の三廊式教会堂（奥行三十五m、間口十六m）で、基礎には特産の黒島御影石が使用されている。建築には四十万個もの煉瓦が使われ、その一部は黒島で作られている。

内部の壁面は下から順にアーケード、トリフォリウム、（壁付アーチ）、クリアストリー（高窓）から成る三層の構造で、天井にはリブ・ヴォールト（こうもり天井）、窓にはステンドグラスと大変美しい造りである。祭壇には有田焼のタイルが敷かれ、アンジェラスの鐘やキリスト像、ステンドグラスはフランス製で当時のものが保存されている。マルマン神父手作りの説教壇も残っており、極めて充実した内容である。内部の床は、当初板敷だったが、後に畳が敷かれ平成三年（一九九一）に長椅子となっている。明治期の煉瓦造教会堂としては、規模が大きく完成度が高いことから、その後の教会堂建設の模範となり、全国的にも貴重な存在である。

英語説明は、段落分けされておらず、8文157語から成る。書き出しは3文字分スペースを空けることを提案する。アンダーライン、文末の赤い数字は本稿執筆者による。

A Nationally important cultural asset, Kuroshima-church

The Kuroshima church had been brought to completion in 1902 using 400,000 bricks by donations and

service of believers under the guidance of a French priest called Marmand who had come to the island in 1897 (35 meters depth and 16 meter width).¹ The appearance of the Kuroshima church is Romanesque.² Beautiful stained glasses are used for windows and granites of Kuroshima for its base.³ Tiles of Arita-yaki (a kind of china) are set on the altar interior and the bell of Angelus, the statue of Christ and stained glasses are made in France.⁴ A pulpit made by the priest Marmand still remains in the church.⁵ The floor was made of simple wooden boards, then covered with tatami mats, and benches have been set up there since 1991.⁶ Since it is big and well-built as a brick church in the Meiji-era.⁷ Therefore it became the standard of church constructions later and a nationwide precious architecture.⁸

「表題」について、「黒島天主堂」と言われることが多いので、“*Kuro-shima [-island]-tenshudou [-cathedral]*”とする。

「重要文化財指定」については、原文の前に、段落分けして、“*The Kuro--shima-tenshudou was designated as a nationally important cultural property on May 1st, 1998.*”として加える。第一段落とする。

原文1について、「黒島天主堂の完成」について、いきなり過去完了を使用するのは奇異である。簡潔に“*was completed*”とすることを提案する。「信徒全員の献金や労働奉仕」は“*donations and the service of believers*”とする。「マルマン神父」については、「マルマン」が名前であることを明示する。また、関係詞節を非制限構造にし、付加説明であることを明示するなど、“*, named Marmand, who had come to the island in 1897.*”、「奥行三十五 m、間口十六 m」は、「現状」として、第三段落で記す。“*It was completed in 1902 using 400,000 bricks by donations and the service of believers under the guidance of a French priest, named Marmand, who had come to the island in 1897.*”とすることを提案する。福島（2017.9）に従い、「歴史」として独立させる。第二段落とする。

原文2以後は「現状」として、第三段落とする。原文2の後に、「奥行三十五 m、間口十六 m」に記す。原文3について、「ステンドグラス」は単数とし、“*Beautiful stained glass is used*”とする。「黒島御影石」は、“*Kuroshima granite*”とする。「全体」から「部分」へと記述し、「黒島御影石が基礎に使われ、美しいステンドグラスが窓に使われている。」とする。

原文4について、「祭壇には有田焼のタイルが敷かれています。」「フランス製のアンジェラスの鐘、キリスト像、ステンドグラスも見られます。」と、文を分け、“*Tiles of Arita-yaki (a kind of china) are set on the altar.*”、“*The bell of Angelus, the statue of Christ and stained glass made in France can also be seen.*”と記す。“on the altar”で、建物の「内部」であることは明らかであるので、“interior”は削除する。原文5について、“*The pulpit*”とする。原文6について、「当初板敷だったが後に畳が敷かれた。」で文を終わらせ、“*The floor was originally made of simple wooden boards, and later it was covered with tatami mats.*”とする。「千九百九十一に長椅子になっている。」は、“*Benches have been set up there since 1991.*”とし別文とする。

原文7、原文8は、「黒島天主堂の評価」に関係する。第四段落とする。しかし、「評価」という点では、第一段落に入れてよいかもしれない。原文7について、“*Since....*”では、節になってしまう。“*Since*”を削除し、“*It is a big and well-built brick church from the Meiji-jidai [-period].*”とする。原文8について、「教会堂建設（術）の模範」の意味であるので、“*the standard of church construction*”とし、「全国的にも貴重な建造物」の意味を具体的に示し、“*architectural structure*”とする。“*Therefore it became the standard of church construction later and a nationwide precious architectural structure.*”

とすることを提案する。

現地の案内板の英語説明について、本稿執筆者の修正案などを含め、まとめる。

Kuro-shima [-island]-tenshudou [-cathedral]

The *Kuro-shima-tenshudou* was designated as a nationally important cultural property on May 1st, 1998.

It was completed in 1902 using 400,000 bricks by donations and the service of believers under the guidance of a French priest, named Marmand, who had come to the island in 1897.

The appearance of the *Kuroshima-tenshudou* is Romanesque. It is 35m in depth, and 16m in width. Kuroshima granite is used for its base and beautiful stained glass for windows. The bell of Angelus, the statue of Christ and stained glass made in France can also be seen. Tiles of *Arita-yaki* (a kind of china) are set on the altar. The pulpit made by the priest Marmand still remains in the church. The floor was originally made of simple wooden boards, and later it was covered with *tatami* mats. Benches have been set up there since 1991.

It is a big and well-built brick church from the *Meiji-jidai* [-period]. Therefore it became the standard of church construction later and a nationwide precious architectural structure.” とすることを提案する。

日本語説明には詳しい構造説明が見られる。一般観光客にはあまり興味がないことであろう。リーフレットなどに説明を譲るべきと思われる。

以上の画像4の現地の案内板の加筆修正案をもとに、以下の日本語説明、英語説明を提案する。日本語説明文中の赤字の部分は現地の案内板を大幅に変えたか、現地の案内板には存在しないものである。

徒歩約10分にある「キリスト教徒共同墓地」はマルマン神父の墓もあり、印象的である。そこに観光客を立ち寄らせるために、「周辺の見所」として案内板に加えることを提案する。

「国指定重要文化財」の記述は、「世界遺産登録された黒島の集落の構成素」の記述の段落で述べる。

「評価」→「歴史」→「現状」→「周辺の見所」と記す。これらに準じ、加筆・削除を試みる。「売り」と思われるもの、「ーリブボルトの天井、有田焼の祭壇、マルマン神父手製の説教壇ー」は「副題」で記す。

説明に説得力をもたせるため、画像3のような写真や、屋内の「リブボルトの天井」、「有田焼の祭壇」、「マルマン神父手製の説教壇」の写真を添付することを提案する。

黒島天守堂

ーリブボルトの天井、有田焼の祭壇、マルマン神父手製の説教壇ー

黒島天守堂は、1998年5月に国の重要文化財に指定されており、2018年7月に「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」として世界遺産登録された「黒島の集落」の構成素です。「黒島の

集落」は、平戸藩の牧場跡の再開発地にキリスト教徒が移住し、表向き所属していた仏教寺院で、マリア観音に祈りをささげながら信仰を続け、独自のキリスト教共同体を維持した集落として知られています。

黒島天主堂は、もとは1879年にアルベルト・ペルー神父によって造られた木造の教会でした。この建設により、黒島における「潜伏」キリシタンの伝統は終わりをづけました。

現在の天主堂は1902年にフランス人ヨセフ・フェルディナン・マルマン神父によって、黒島の信徒全員の献金や労働奉仕を通して完成しました。明治期の教会堂としては、規模が大きく完成度が高い煉瓦造りで、その後の模範となりました。

奥行35m、幅16mで、40万個の煉瓦が使われています。外観は11－12世紀の西ヨーロッパのロマネスク様式の簡素な構造です。屋内は、リブボールドの天井、有田焼の祭壇、マルマン神父手製の説教壇が観光客を魅了します。内部の床は当初板敷でしたが、後に畳が敷かれ、1991年に長椅子が置かれています。

徒歩10分以内に「小田平（こだびら）墓地」というキリシタン共同墓地があります。マルマン神父の墓を含む黒島で亡くなった聖職者の墓もあります。

Kuro-shima [-island]-tenshudou [-cathedral]

—The rib-vaulted ceiling, the tiles of *Arita-yaki* (a kind of china) on the altar, and the pulpit made by Father Marmand himself can be seen—



The *Kuro-shima-tenshudou* was designated as a nationally important cultural property in May, 1998. It is among the components of *Kuroshimano-shuuraku* [-village], which was inscribed on the world cultural heritage list as one of the “Nagasaki and Amakusa Hidden Christian Sites” in July, 2018. The village is known as the site on *Kuro-shima* which had once been used as a pasture of the *Hirado-han* [-fiefdom], and had been redeveloped. Hidden Christians migrated there, and continued their faith in the Buddhist

temple that they outwardly belonged to. They secretly prayed to the statue of the Bodhisattva *Kannon* as an avatar of the Virgin Mary, and kept their own Christian community.

The *Kuroshima-tenshudou* was originally a wooden church constructed by Father Albert Peru of France in 1879. Because of its construction the tradition of “Hidden” Christians on *Kuro-shima* came to an end.

The present cathedral was completed in 1902. The construction work was carried on by donations and the physical labor of all the believers of *Kuro-shima* under the guidance of Father Joseph Ferdinand Marmand of France. It is a large and well-built brick church, which was built in the *Meiji-jidai* [-period] and became the standard of church construction later.

It is 35 meters from front to back, 16 meters wide, and built using 400,000 bricks. The exterior is a simple Romanesque architecture style which had been fashionable in Western Europe in the 11th

and 12th centuries. In the interior there are a rib-vaulted ceiling, tiles of *Arita-yaki* (a kind of china) set on the altar, and the pulpit made by Father Marmand himself which attract tourists. The floor was originally made of simple wooden boards, and later it was covered with *tatami* mats. Benches have been set up there since 1991.

There is a public graveyard for Christians, called the “*Kodabira-bochi* [-graveyard]“, within a ten-minute walk of the cathedral. We can also find graves of clergymen who died on *Kuro-shima*, including the grave of Father Marmand.

「副題」を含め356語となった。「黒島天主堂」がその構成素である、「黒島の集落」についての説明がやや多くなったこと、また、日本語説明の多くを英語説明にも入れ、「副題」にも、目立った「売り」となる内部説明を記したことによる。

2.3 乙女峠

画像5の「乙女峠」は「JR津和野駅」から徒歩10分程のところにある。ここ「乙女峠」は、「光琳寺」境内であり、明治元年に、長崎浦上から157名のキリスト教徒が送られ、改宗のため拷問が行われ、37名が殉教した地として知られている。

画像6の日本語説明の案内板について、現地ものを横書きで記す。各段落について、1文字分

5



6



7



スペースを空けていることには賛成できる。必要と思われる振り仮名は、(ふりがな)と記す。

画像7の英語説明の案内板について、7段落10文258語からなる。各段落の始めに3文字分スペースを空けていることには賛成できる。但し、2019年8月16日現在、判読が困難である。石版が灰色であり、文字を刻みこんでいるが、金色の塗料がはげていることによる。

案内板の日本語説明、英語説明は以下の通りである。

キリシタン殉教史跡 乙女峠の由来

明治元年長崎浦上の隠れキリシタンは禁教令により、三千三百九十四名が捕らえられ、その内、百五十三名は津和野へ流刑となり、長崎浦上から連行され、ここ光琳寺（こうりんじ）の境内にあった古い納屋に収容されました。

彼等は戦国時代のキリシタンの子孫で、江戸時代の二百五十年間、厳しい弾圧の中、隠れて信仰を守り通していました。

この歴史は世界のカトリック史上、例をみない事で、歴代のローマ教皇を初め、全世界の人々から賞賛を受けております。

ここ津和野へ連行された彼等は五年の間、信仰を改めるようにと、ある者は連日三尺牢に入れられ、ある時（「ある者」？）は真冬、氷が張りつめた池に何度も入れられ、筆舌に尽くせぬ拷問を受けました。

そして信仰を守り通したキリシタンの中で、残酷な拷問のために三十七名が殉教の死を遂げました。

殉教者となった安太郎は、拷問で連日三尺牢に入れられていた時、聖母マリアが毎晩のように安太郎の前にあらわれになり、やさしくお話をされ、慰められたそうです。そして安太郎は間もなくして三尺牢の中で、聖なる殉教を遂げました。

乙女峠というこの土地の名称は昔からあったものですが、聖母マリアが安太郎に出現されたことで、真にふさわしい名称になりました。

明治六年、二百五十年以上続いたキリシタン禁教令が撤廃され、厳しい拷問を受けながらも信仰を守り通したキリシタン達は、長崎浦上へ帰りました。

英語説明は、7段落 10 文 258 語から成る。「副題」を含めると 266 語から成る。段落始めを 3 文字分スペースを空けていることに賛成できる。アンダーライン、文末の赤い数字は本稿執筆者による。石版を彫り費用がかかった案内板であるが、隣接されている日本語案内板のように適切な手入れがされておらず、判読が困難である。

THE HISTORY OF OTOMR TOUGE — THE SITE OF THE MARTYRDOM OF HIDDEN CHRISTIANS—

In the first year of Meiji (1868), by the law Christianity was prohibited, three thousand three hundred ninety four Hidden Christians from Uragami Nagasaki were arrested, and one hundred and fifty three of them were exiled to Tsuwano and confined in old outhouses in the grounds of Korinji Temple.¹

They were the descendants of Hidden Christians from the age of civil war had secretly dared to hold on their beliefs despite severe suppression for two hundred and fifty years during Edo period.²

This history of suppression has no precedent in the long history of Christianity and has been the object of admiration of successive popes and of many people all over the world.³

For five years the Hidden Christians were tortured beyond description in order to make them give up their faith.⁴ Some were put daily into the Sanjakuro (only 90 centimeter cubed jail) and others were thrown over and over again into ponds of icy frozen water in the middle of winter.⁵

Through cruel torture thirty seven hidden Christians died as martyrs for their faith.⁶

One of the martyrs Yasutaro who was tortured continuously in the Sanjakuro.⁷ It is said that the Blessed Virgin Mary appeared to him every night, talked to him tenderly and consoled him.⁸ Yasutaro died a holy death in the Sanjakuro.⁹

In the sixth year of Meiji (1873), the Decree of Prohibition of Christianity which had been in force for two hundred and fifty years was repealed, and the Christians who had kept their faith under severe torture were returned to Urakami Nagasaki.¹⁰

「表題」と「副題」について。これまでの本稿執筆者の表記法に従い、“*Otome-touge [-pass]*”、“**The site of the martyrdom of Hidden Christians**—” とすることを提案する。「峠」が“pass”の意味であることを明示する。「殉教」の綴りの誤りを修正する。

第一段落の原文1について、「禁教令の下」を“**under the Ban on Christianity**”と簡略にする。「長崎浦上」は、“**Urakami, Nagasaki Prefecture**”とする。「3,394人」、「153人」を数字で記す。「光琳寺の境内にあった古い納屋に収容されました。」は別文とする。「島根県津和野」とし、「明治」、「光琳寺」の表記はこれまで通りとする。“**In the first year the Meiji-jidai [-period](1868), under the Ban on Christianity, 3,394 Hidden Christians from Urakami, Nagasaki Prefecture, were arrested, and 153 of them were exiled to Tsumano, Shimane Prefecture. They were confined in old outhouses on the premises of the Kourin-ji [-temple].**”

第二段落の原文2について、日本語説明の「戦国時代フランシスコサビエルにより教えを受けた」に合わせ、“**They were the descendants of Hidden Christians taught by Francisco Xavier during the Warring States period (1467-1568).**”とする。「戦国時代」は日本史の英語訳では一番一般的なものを使用する。“...civil war had secretly...”は、文法的に誤りである。関係代名詞“who”を使用し、“**who had secretly dared to hold onto their beliefs despite severe suppression for 250 years during the Edo-jidai [-period].**”とするべきである。“hold onto”とし、「江戸時代」を、これまでの表記法に従い“**the Edo-jidai [-period]**”と表記する。全体を“**They were the descendants of Hidden Christians taught by Francisco Xavier during the Warring States period (1467-1568), who had secretly dared to hold onto their beliefs despite severe suppression for 250 years during the Edo-jidai [period].**”とする。

第四段落原文5の「三尺牢」とその説明は、説明部分に不定冠詞を補うなど、“**the Sanjaku-rou (about a 90-centimeter small cubed jail)**”とする。

第五段落原文6について、“**37 Hidden Christians**”とする。文頭の場合、“**Thirty-seven Hidden Christians**”と数字を用いない。

第六段落原文7について、関係詞を使用すると、文にならなくなるので削除する。「殉教者の一人」は「安太郎」の説明であるので、順序を入れ替え、“**Yasutarou, one of the martyrs, was tortured continuously in the Sanjaku-rou.**”とする。原文7は、“**Yasutarou, one of the martyrs, was tortured continuously in the Sanjaku-rou.**”となる。第六段落は、“**Yasutarou, one of the martyrs, was tortured**

continuously in the *Sanjaku-rou*. It is said that the Blessed Virgin Mary appeared to him every night, talked to him tenderly and consoled him. **Yasutarou died a holy death in the *Sanjaku-rou*.**”となる。

第七段落原文 10 について、「長崎浦上」は“**Urakami, Nagasaki Prefecture**”とする。

***Otome-touge* [-pass]**

—The site of the martyrdom of Hidden Christians—

In the first year the *Meiji-jidai* [-period](1868), under the Ban on Christianity, 3,394 Hidden Christians from Urakami, Nagasaki Prefecture, were arrested, and 153 of them were exiled to Tsuwano, Shimane Prefecture. They were confined in old outhouses on the premises of the *Kourin-ji* [-temple].

They were the descendants of Hidden Christians taught by Francisco Xavier during the Warring States period (1467-1568), who had secretly dared to hold onto their beliefs despite severe suppression for 250 years during the *Edo-jidai* [period].

This history of suppression has no precedent in the long history of Christianity and has been the object of admiration of successive popes and of many people all over the world

For five years the Hidden Christians were tortured beyond description in order to make them give up their faith. Some were put daily into **the *Sanjaku-rou* (about a 90- centimeter small cubed jail)** and others were thrown over and over again into ponds of icy frozen water in the middle of winter.

Through cruel torture **37 Hidden Christians** died as martyrs for their faith.

Yasutarou, one of the martyrs, was tortured continuously in the *Sanjaku-rou*. It is said that the Blessed Virgin Mary appeared to him every night, talked to him tenderly and consoled him. Yasutaro died a holy death in the *Sanjaku-rou*.

In the sixth year of Meiji (1873), the Decree of Prohibition of Christianity which had been in force for two hundred and fifty years was repealed, and the Christians who had kept their faith under severe torture were returned to **Urakami, Nagasaki Prefecture.**

以上の画像 6、7 の現地の案内板のものを参考にして、以下の日本語説明、英語説明を提案する。日本語説明文中の赤字の部分は現地の案内板を大幅に変えたか、現地の案内板には存在しないものである。現地の説明を簡略化する一方、「津和野カソリック教会」の案内を加えている。日本語説明、英語説明共、1 枚の案内板で記すほうが良いと思われる。

「評価」→「歴史」→「現状」→「周辺の見所」と記す。これらに準じ、加筆・削除を試みる。「売り」と思われる事柄、「— 明治時代になっても多くの潜伏キリシタンが残酷な拷問を受けた地 —」は「副題」で記す。

説明に説得力を持たせるために、画像 5 のような写真や、「乙女峠記念聖堂」内に展示されているステンドグラスの写真を添付することを提案する。

乙女峠

—明治時代になっても多くの潜伏キリシタンが残酷な拷問を受けた地—

島根県津和野の乙女峠は、明治元年〈1868〉に長崎県浦上の 3,394 名の潜伏キリシタンのうち

153名が流刑となった地として知られています。彼等は禁教令の下、捕縛されたのでした。乙女峠の光琳寺境内の古い納屋に収容されました。

彼らは、戦国時代フランシスコ・サビエルの教えを受けた潜伏キリシタンの子孫でした。江戸時代の250年に及ぶ厳しい迫害の下でも、彼らは密かに信仰を続けました。(このことは歴代のローマ法王を含め全世界の人々の賞賛的となっております。)

幽閉された人々は地獄の拷問を味わいました。安太郎をはじめとする「三尺牢」に閉じ込められた者もいました。また、厳冬のさなか裸で池に投げ込まれた者もいました。信仰を守り通した潜伏キリシタンの37名が殉教の死を遂げました。

1873年約250年続いた禁教令が撤廃され、津和野で厳しい拷問を受けても信仰を続けたキリシタンは、長崎県浦上に戻されました。

153名のキリスト教徒が自分たちで食事を準備した水洗い場と古井戸が現存しています。また、キリスト教徒が極寒の中、衣服を脱がされ投げ込まれ拷問を受けた池もあります。「乙女峠記念聖堂」と呼ばれる小さな教会建築物があり、中には何枚も美しいステンドグラスが展示されています。また、建築物の隣には、聖母マリアと三尺牢に入れられた安太郎の像があります。

ここから徒歩20分に「津和野カソリック教会」が存在します。隣接する施設内では、「信徒発見」や「浦上四番崩れ」などの情報を得ることができます。また、明治初年の乙女峠のジオラマは目を引きます。

***Otome-touge* [-pass]**

—The site where many Hidden Christians suffered cruel torture even in the *Meiji-jidai* [-period] —

Otome-touge in Tsuwano, Shimane Prefecture, is known as the site where 153 of 3,394 Hidden Christians in Urakami, Nagasaki Prefecture, were exiled in 1868 (the first year of the *Meiji-jidai*). They had been arrested under the ban on Christianity. They were confined in old outhouses on the premises of the *Kourin-ji* [-temple] at *Otome-touge*.

They were the descendants of Hidden Christians taught by Francisco Xavier during the Warring States period (1467-1568), and continued their faith secretly under severe persecution for 250 years during the *Edo-jidai*. (This has been the object of admiration of people all over the world, including successive generations of the Supreme Pontiff.)

Those confined people suffered severe torture. Some, including Yasutarou, were imprisoned in the “*Sanjaku-rou*” (about a 90-centimeter small cubed jail). Others were stripped naked and thrown into the pond during the coldest season. Thirty-seven Hidden Christians died as martyrs for their faith.

In 1873 the Decree of Prohibition of Christianity which had been in force for about 250 years was repealed. The Christians who had continued their faith under severe torture were returned to Urakami, Nagasaki Prefecture.

You can see the washing space and the old well where those 153 Christians cooked their own meals, and also the pond where some of them were tortured during the coldest season. You can find a small wooden church building named the “*Otome-touge Kinen Seidou* (memorial church)” where many exhibits of beautiful stained glass can be seen. Figures of the Virgin Mary and Yasutarou in the



Sanjaku-rou can be seen next to the building.

Within twenty minutes' walk from here there is the Tsuwano Catholic Church. In the neighboring facility, you can get historical information about the "Discovery of the Hidden Christians in 1865", the "*Uragami Yon-ban Kuzure*" (the "forth mass arrest of Christians in Uragami, Nagasaki, in 1867"). And there is a diorama showing the scenery of the *Otome-touge* in 1868 (the first year of the *Meiji-jidai*) catching the eyes of the visitors.

「副題」を含め 343 語となった。

現地の英語説明の案内板には見られない「乙女峠記念聖堂」、「安太郎とマリア像」について加えたため語数が増えた。「津和野カトリック教会」の存在を知らない観光客が多い。そこにも訪問させるため、73 語追加したことも語数増加の原因となっている。

2.4 紫福（しぶき）中山地区祈念地

画像 8 の「紫福中山地区祈念地」は「JR 東萩駅」から「松陰神社前」を經由し、車で東に 40 分程のところにある。ここは、江戸時代前の戦国時代、1557 年に始まった毛利元就によるキリシタン弾圧の中、山口から逃れてきた多くのキリスト教徒が身を潜めた地区として知られている、「紫福の里」の中に存在する。ここは、1999 年に紫福の山腹の墓地を整理、移動したところである。2019 年 3 月訪問時には、「上野山八幡宮」の白神崇様のご案内で個人所有の土地を抜けて、見学が出来た。

画像 9 の日本語説明のみの案内板は次の如くである。原文は縦書きであるが、横書きで記す。「紫福」、「仁保」は振り仮名をふることを提案する。(しぶき)、(にほ) と横書きで記す。段落始めは 1 文字分スペースを空けることを提案する。

8



9



阿武郡 福栄村 紫福（しぶき） 中山地区 祈念地について

1549年、フランシスコ・ザビエルがキリスト教を布教するため来日し、大内義隆氏（一五〇七～一五五一）の頃、山口で布教活動をし、多くの人たちが信徒となりました。そしてザビエルが日本から去り、毛利氏の時代となってからは切支丹禁制の政策がとられ、宣教師を追放する等キリスト教にとって厳しい時代となり、大半の信徒たちは山口の仁保（にはほ）あたりから、ここ紫福の山中に移り住んだといわれています。[一五六〇年頃]以来信徒たちはこの地でキリスト教の教えを守り至福の時を待ちながら、ひっそりと生活して来ました。

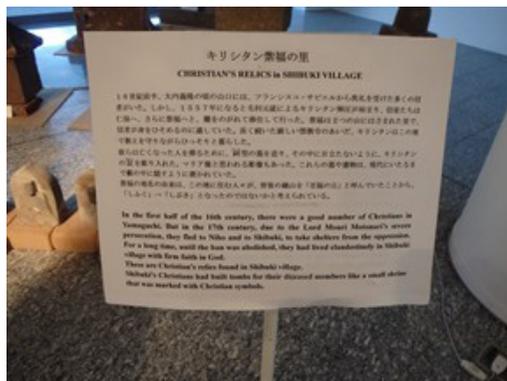
この間、至福がなまって紫福になったとか、紫福を至福と呼んだとか、或いは近くの鍋山を至福の丘と言っていた等とありますが、何れも伝説となっています。

やがて時は流れ信徒たちの墓碑も風雪にさらされる状態となりました。このような時代から約四五十年を経た千九百九十九年の今日、時あたかもザビエル来日四五十年及び、西暦二〇〇〇年[大聖年]を迎える準備の記念すべき年に当たりますので、一つの事業として「キリシタンの里紫福の会」ではこの中山地区西村教夫様のご英断とご好意によりこのたびここに、山腹の墓地を整備し「キリシタン至福の里中山地区祈念地」としたものであります。

一九九九年 四月十七日

カトリック山口教会 萩教会 キリシタンの里至福の会

10



画像10は、「キリシタン紫福の里 CHRISTIAN RELICS in SHIBUKI VILLAGE」という表題の日本語説明・英語説明入りの案内板で、山口県山口市「山口サビエル記念聖堂」内に見られる。「紫福」で発見された展示物、「祠（ほくら）」などの前に設置されている。

第一段落は、画像9の「中山地区祈念地」のものと変わらない。第二段落は、展示されている祠（ほくら）について挙げ、内部の説明をしている。英語説明中で、「毛利（もうり）」を“Mouri”と

していることには賛成できる。日本語説明は1文字分、英語説明は3文字分スペースを空けるべきである。

キリシタン紫福（しぶき）の里 CHRISTIAN RELICS in SHIBUKI VILLAGE

16世紀前半、大内義隆の頃の山口には、フランシスコ・サビエルから洗礼を受けた多くの信者がいた。しかし、1557年になると毛利元就によるキリシタン弾圧が始まり、信徒たちは二保（にはほ）へ、さらに紫福へと、難をのがれて移住して行った。紫福は2つの山にはさまれた里で、信者が身をひそめるのに適していた。長く続いた厳しい禁教令のあいだ、キリシタンはこの地で教えを守りなが

らひっそりと暮らした。

彼らはなくなった人を葬るために、祠（ほくら）型の墓を造り、その中に目立たないように、キリシタンの証（あかし）を彫り入れた。マリア像と思われる彫像もあった。これらの墓や遺物は、現代にいたるまで藪の中に隠すように置かれていた。

紫福の地名の由来は、この地に住む人々が、背後の鍋山を「至福の丘」と呼んでいたことから、「しふく」→「しぶき」となったのではないかと考えられている。

英語説明は、2段落91文で記されている。段落始めは3文字分スペースを空けるべきである。アンダーライン、文末の赤い数字は本稿執筆者による。

In the first half of the 16th century, there were a good number of Christians in Yamaguchi.¹ But in the 17th century, due to the Lord Mouri Motonari's severe persecution, they fled to Niho and to Shibuki, to take shelters from the oppression.² For a long time, until the ban was abolished, they had lived clandestinely in Shibuki village with firm faith in God.³

These are Christian's relics found in Shibuki village.⁴ Shibuki's Christians had built tombs for their deceased members like a small shrine that was marked with Christian symbols.⁵

第一段落原文1について、日本語説明文中の「大内義弘の頃の」、「フランシスコ・サビエルから洗礼を受けた」は、重要な歴史事項である。“**In the first half of the 16th century, during the reign of Lord Oouchi Yoshihiro, in Yamaguchi there were a good number of Christians who had received baptism from Francisco Xavier.**”とすることを提案する。

第一段落原文2について、「毛利元就公」は、定冠詞を削除し、“**Lord Mouri Motonari**”とする。「毛利元就公の頃」とし、前文の提案に合わせ、“**during the reign of Lord Mouri Motonari, the Christians were severely persecuted and fled to the Niho region and then to the Shibuki region.**”

原文3について、「禁教令の撤廃」が1873年であるので、それを明記する。“clandestinely”は平易に“**secretly**”とする。“**For a long time, until the ban was abolished in 1873, they had lived secretly in Shibuki Village with firm faith in God.**”とすることを提案する。

原文5について、“diceased”は綴りの誤りである。“**deceased**”とするべきである。単に“Cristian symbols”では、断言しすぎと思われる。画像8の祠の内部を見ても、はっきり「キリスト教徒の象徴」と認識できるわけではないので、「キリシタンの証（あかし）のようなものを彫り入れた”**was marked with something like Christian symbols**”とした方が良いであろう。“**Shibuki's Christians had built small Hokora-shaped tombs for their deceased members. The tombs resemble small shrines with carved statues inside. Each statue was marked with something like a Christian symbol.**”とすることを提案する。

画像9の現地の日本語説明のみの案内板、また画像10の「山口サビエル記念聖堂」内で見られる日本語説明と英語説明の入った案内板を参考に、特に英語説明に加筆修正を加え、以下の日本語説明、英語説明の案内板を設置することを提案する。日本語説明文中の赤字の部分は現地の案内板を大幅に変えたか、現地の案内板には存在しないものである。地名の漢字の由来については、伝説であるので、省略する。画像9では、「フランシスコ・ザビエル」となっているが、「山口サビエル

記念聖堂」内の案内板に準じ、「フランシスコ・サビエル」とする。

「評価」→「歴史」→「現状」と記す。これらに準じ、加筆・削除を試みる。「売り」と思われる事柄、「一戦国時代にすでにキリスト教禁教令は始まっていたー」を「副題」で記す。「周辺の見所」については、現在のところ、徒歩圏内に存在しないので、記さない。

説明に説得力を持たせるために、画像8のような写真を添付する。

紫福（しぶき）中山地区祈念地

—戦国時代にすでにキリスト教禁教令は始まっていたー

紫福中山地区祈念地は、フランシスコ・サビエル来日450年を記念し、また起源2000年を迎えるにあたり、1999年に、放置されていた潜伏キリシタンの墓を、西村教夫様個人のご英断とご好意により集め整理したところです。

16世紀前半、大内義弘公の時代、山口にはフランシスコ・サビエルの洗礼を受けた多くのキリシタンがいました。しかし、17世紀毛利元就公の時代には、キリシタンは厳しい迫害を受け、仁保（にはほ）、それから紫福へと移住していきました。1873年、禁教令が撤廃されるまでの長い間、彼らは神を固く信じ、紫福の集落でひっそりと暮らしていました。紫福は2つの山にはさまれた里で、キリシタンが身をひそめるのに適していました。

多くの紫福のキリシタンは亡くなった同胞のために（小さな神社のような）祠（ほこら）型の、中に彫像が入った墓を造り、それぞれにキリシタンの証のようなものを彫り入れました。

時が経ち、キリシタンの墓は放置され、風雨にさらされました。

上記のように、山腹の墓は整理され、ここ「中山地区祈念地」に1999年に移されました。それらは、潜伏キリシタンの悲しみと忍耐の雰囲気を醸し出しています。

Shibuki Nakayama-chiku-kinenchi (the praying spot of Nakayama district in Shibuki Village)

—The ban on Christianity had already been started during the Warring States Period in the history of Japan—



The *Shibuki Nakayama-chiku-kinenchi* is the spot where the deserted tombs of Hidden Christians were gathered and arranged through the excellent decision and kindness of a private individual, Mr. Nishimura Toshio, in 1999. This project was drawn up to celebrate the passing of 450 years since Francisco Xavier's arrival in Japan, and also the coming of 2000 A.D. (2,000 years since Christ was born).

In the first half of the 16th century, during the reign of Lord Oouchi Yoshihiro, in Yamaguchi there were a good number of Christians who had received baptism from Francisco Xavier. But in the

17th century, during the reign of Lord Mouri Motonari, Christianity was banned, and the Christians were severely persecuted and fled to the Niho region and then to the Shibuki region. For a long time, until the ban was abolished in 1873, they had lived secretly in Shibuki Village with firm faith in God. Shibuki Village is located between two hills and was suitable for them.

Many of Shibuki's Hidden Christians had built *Hokora*-shaped (resembling small shrines) tombs with small statues inside for their deceased. Each statue was marked with something like a Christian symbol.

As time passed on, the tombs of those Christians were deserted and exposed to wind and rain.

As mentioned above, those tombs on the hillside were arranged and moved here to the *Nakayama-chiku-kinenchi* in 1999. They evoke the atmosphere of sorrow and patience of Hidden Christians.

「副題」を含め 255 語となった。

3. おわりに

以上、長崎県上五島町の「頭ヶ島天主堂」、長崎県佐世保市の「黒島天主堂」、島根県津和野町の「乙女峠」、山口県の「紫福中山地区祈念地」の「総合案内板」について提案を行った。前二者は、「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」として、2018年7月に世界遺産登録された「頭ヶ島の集落」、「黒島の集落」の構成素である。福島(2019.7)と同様、前二者は崎津資料館みなど屋(2017.8.1)に準じ、それぞれが属する集落が、世界遺産登録された理由を記した。後の二者は、長崎県や熊本県天草から離れた「潜伏キリシタン」関連地と言えるであろう。

現地の案内板の英語説明については、「乙女峠」のものを除いては、「説明が不十分」と感じられた。前二者は、韓国語や中国語の説明も併記されているためとも思われる。「紫福中山地区祈念地」には、日本語説明しか見られなかった。予算が許せば、各地共に日本語説明と英語説明のみの独立した案内板を設置することを提案する。

現地の案内板について検討を加え、それらを参考に新しい案内板の提案を試みた。

提案した説明部分の記述順は、それぞれが、「潜伏キリシタン」の歴史に関連するところであるので、福島(2019.7)と同様、概略、「評価」→「歴史」→「現状」→「周辺の見所」などと、項目順に段落分けし、記述することを提案した。「売り」と思われることを「副題」とした。

福島(2017.9)などで記してきたが、「総合案内板」とは、当該観光地について包括的に概略を説明する案内板である。リーフレットやホームページの記述と異なり、特に簡潔明瞭が要求され、一般人の読む気を失くさせないように、英語説明は、理想的には250語程度に抑えるべきと、提案してきた。しかし、これまで提案してきたものには、この語数を大きく超えるものもあった。

「頭ヶ島天主堂」について、本稿執筆者が提案する英語説明の語数は、「副題」を含め、273語となった。現地案内板の英語説明の原文には、関係詞、数などの文法的誤り見られた。また、基本的な前置詞の誤りが見られた。

「黒島天主堂」について、「副題」を含め、356語となった。「黒島の集落」の説明が多くなったこと、目立った内部の説明を加え、「売り」として「副題」でも記したことによる。現地の英語説明には、「歴史」説明に現在にも共通する「現状（奥行・間口）」を入れる、という「情報の詰め

込み過ぎ」と思われる例が見られ、短い文に分けることを提案した。

「乙女峠」については、「副題」を含め、343語となった。現地の案内板には記述されていない、周辺の見所である「津和野カトリック教会」、乙女峠に見られる「乙女峠記念聖堂」、「安太郎と聖母マリア像」の記述を加えたことによる。There is 構造と考えてしまったのだろうか、主格関係代名詞“who”を省略する文法的誤りが現地の案内板に存在した。逆に、不必要な関係詞“who”を使用している例も存在した。

「紫福中山地区祈念地」については、「副題」を含め、255語となった。現地で見られた日本語説明のみの案内板と、山口市「山口サビエル記念聖堂」内で見られた案内板の日本語・英語説明を参考に加筆修正を行った。地名「紫福」という漢字の由来については、現地の案内板では、「伝説」としている。この記述は省略した。「周辺の見所」のようなものは、徒歩範囲内には存在しないので、記さなかった。

本稿で提案したものは、現地の見所、周辺の見所まで記す「総合案内板」であるので、現在見られるものより、日本語説明、英語説明の記述量が多くなることは予想された。「黒島天主堂」、「乙女峠」については執筆者が理想と考える英語説明語数250語を大幅に超えてしまった。記述順で提案した各項目は残し、項目内の本稿が提案した説明文の中で、「説明過剰」と現地が思われた箇所は簡略化していただければと思う。

本稿執筆にあたり、これまでと同様、提案した英語のネイティブチェックはDavid Martin氏にお願いした。感謝したい。

また、「紫福中山地区祈念地」にご案内下さった白神崇様にも、感謝したい。

註

- 1) 格調が高いことより、一般人が理解しやすいことや目立つことに重点を置き、綴字法などの規則性は一般文書ほど強くない。また、設置位置、色彩など、「視覚的認識の容易さ」も含まれる。「案内板」という点で、リーフレットやインターネットなどとは異なり、語数をあまり増やせない。また、現在でも、地方では外国語案内板の数は少ないようである。讀賣新聞(2016.11.1)でも、訪日観光客が増加しているが、地方では外国語案内板の数が少ない旨、述べている。
- 2) 崎津資料館みなと屋(2017.8.1)『瓦版第2号』。「(キリスト教徒が)」の部分は執筆者が補っている。

参考文献

- ブリタニカ・ジャパン編(2013)『ブリタニカ国際大百科事典』小項目電子辞書版 東京:ブリタニカ・ジャパン
- 福島一人(2011.1)「観光英語(1):国宝天守をもつ松本城の案内板の英語」『情報研究』第44号、茅ヶ崎:文教大学情報学部
- (2011.7)「観光英語(2):国宝天守をもつ、松本城案内板の英語と比較した姫路城、彦根城、犬山城の案内板の英語」『情報研究』第45号、茅ヶ崎:文教大学情報学部

福島 一人：観光英語 (17)：長崎県、島根県、山口県に見られる歴史的キリスト教関連遺産の総合案内板の英語

—— (2012.7) 「観光英語 (3)：重要文化財の天守を有する備中松山城、丸亀城、高知城、弘前城の案内板の英語」『情報研究』第 47 号、茅ヶ崎：文教大学情報学部

—— (2013.1) 「観光英語 (4)：重要文化財の天守を有する丸岡城の案内板の英語」『情報研究』第 48 号、茅ヶ崎：文教大学情報学部

—— (2014.1) 「観光英語 (5)：重要文化財の天守を有する宇和島城、伊予松山城、松江城の案内板の英語」『情報研究』第 50 号、茅ヶ崎：文教大学情報学部

—— (2014.7) 「観光英語 (6)：世界遺産に登録されている広島県宮島の案内板の英語」『情報研究』第 51 号、茅ヶ崎：文教大学情報学部

—— (2015.1) 「観光英語 (7)：日本の城郭などに見られる英語案内板の表記内容再検討と綴字についての提案」『情報研究』第 52 号、茅ヶ崎：文教大学情報学部

—— (2015.7) 「観光英語 (8)：神奈川県の名所鎌倉に見られる案内板の英語」『情報研究』第 53 号、茅ヶ崎：文教大学情報学部

—— (2015.9) 「案内板における日本の固有名詞などの英文字表記」『日本実用英語学会論叢』第 21 号、東京：日本実用英語学会

—— (2016.1) 「観光英語 (9)：神奈川県の観光名所、三溪園、江の島などに見られる案内板の英語」『情報研究』第 54 号、茅ヶ崎：文教大学情報学部

—— (2016.7) 「観光英語 (10)：神奈川県と静岡県の観光名所、箱根、静岡、浜松、伊豆などに見られる案内板の英語」『情報研究』第 55 号、茅ヶ崎：文教大学情報学部

—— (2017.1) 「観光英語 (11)：京都市の観光名所、清水寺、鹿苑寺、慈照寺に見られる案内板の英語」『情報研究』第 56 号、茅ヶ崎：文教大学情報学部

—— (2017.7) 「観光英語 (12)：京都市の観光名所、龍安寺、仁和寺、賀茂御祖神社、賀茂別雷神社に見られる案内板の英語」『情報研究』第 57 号、茅ヶ崎：文教大学情報学部

—— (2017.9) 「国内観光地の総合案内板の英語についての問題点：文法、記述順を中心に」『日本実用英語学会論叢』第 23 号、東京：日本実用英語学会

—— (2018.1) 「観光英語 (13)：観光名所、二条城、延暦寺、天橋立、鳥取砂丘に見られる案内板の英語」『情報研究』第 58 号、茅ヶ崎：文教大学情報学部

—— (2018.7) 「観光英語 (14)：島根県大田市、山口県萩市、福岡県宗像市の観光名所に見られる案内板の英語」『情報研究』第 59 号、茅ヶ崎：文教大学情報学部

—— (2019.1) 「観光英語 (15)：京都府の観光名所、高山寺、天龍寺、醍醐寺、宇治平等院、熊本県の観光名所、三角西港に見られる案内板の英語」『情報研究』第 60 号、茅ヶ崎：文教大学情報学部

—— (2019.7) 「観光英語 (16)：長崎市大浦天主堂、出津教会堂、大野教会堂、天草市崎津教会、島原市原城跡の総合案内板の英語」『情報研究』第 61 号、茅ヶ崎：文教大学情報学部

市川繁治郎他編（福島一人他執筆）（1995）『新編英和活用大辞典』、東京：研究社

九州観光情報サイト「九州旅ネット」、「九州の世界遺産」、「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」（オンライン）、入手先 https://www.welcomekyushu.jp/world_heritage/spots/christian (2018.6.1 参照)

長崎県文化観光国際部観光振興課（2016.3）『長崎県新上五島町周辺散策マップ、長崎の教会群とキスと教関連遺産、頭ヶ島天主堂』（リーフレット）。長崎市：長崎県文化観光国際部観光振興課

- NHK 総合テレビジョン (2018.10.3 放送) 「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」『歴史秘話
ヒストリア』、東京：日本放送協会
- 新村出編 (2008) 『広辞苑』第6版、東京：岩波書店
- 崎津資料館みなと屋 (2017.8.1) 『瓦版第2号』(リーフレット) 天草市河浦町：崎津資料館みなと屋
- 篠田義明 (1989) 『アメリカ英語最新ビジュアル辞典』東京：研究社
- (2014) 『ICT時代の英語コミュニケーション：基本ルール』東京：南雲堂
- 竹林 滋他編 (2002) 『研究社 新英和大辞典』第6版、東京：研究社
- 渡邊敏郎他編 (2003) 『研究社 新和英大辞典』第5版、東京：研究社